

ARCHIVES  
OF  
MODERN JAPANESE MUSIC  
LECTURE CONCERT SERIES

日本近代音楽館レクチャーコンサートシリーズ

III

洋楽渡来考

- 『サカラメンタ提要』より  
かかる尊い秘跡をば  
来たれ創造主なる聖霊
- 『キリシタン・マリア典礼書写本』より  
めでたし海の星
- ジョスカン・デブレ  
千々の悲しみ
- トマス・ルイス・デ・ビクトリア  
アヴェ・マリア
- フランシスコ・ゲレーロ  
贖い主のおん母

ほか

出演

皆川達夫

お話し指揮

中世音楽合唱団

2014年

11/8 (土) 14:30開演 [開場14:00]

明治学院大学白金キャンパス  
アートホール

**入場無料 要予約** 【10月14日(火)から受付開始】

予約受付 東京コンサーツ

Tel: 03-3226-9755 (平日10:00~18:00)

Fax: 03-3226-9882

主催 明治学院大学図書館付属日本近代音楽館

制作協力 東京コンサーツ



III

洋楽渡来考

ヨーロッパ音楽、洋楽が日本に導入されたのは明治開国前後の時期というのが、ほとんど常識のように受けいられています。ところが実はそれに先立つ300年も昔、つまり今日からほぼ4世紀半前の16・7世紀、いわゆるキリシタン期のがくにすでに洋楽が渡来し、日本人は積極的にそれに好奇の耳をかたむけ、自分たちで歌い奏でようとしました。残念なことに1614年（慶長19年）以降の「キリスト教禁制」のため、せっかく繁栄の途上にあった洋楽は根こそぎ絶やされることになりました。

今回は、そうした状況下において奇跡的に残されたいくつかの手がかり……唯一のラテン語聖歌楽譜史料である『サカラメンタ提要』、ラテン語による祈祷文を変体仮名で書き記した『キリシタン・マリア典礼書写本』（東京国立博物館所蔵）、今なお長崎県生月島の「かくれキリシタン」が歌い継いでいる「オラショ」、さらには箏曲『六段』に刻まれたラテン語聖歌の影響などを、中世音楽合唱団の演奏とCDをまじえてお話しします。

皆川達夫



皆川達夫

Tatsuo MINAGAWA

1927年東京生まれ。1951年東京大学文学部卒業、1953年同大学院修了。1955～58年、1962～64年の2回にわたりアメリカ、ヨーロッパに留学し、研鑽を積む。中世・ルネサンス音楽史専攻。中世音楽合唱団主宰。立教大学教授、東京大学、慶應義塾大学講師として長く後進の指導にも尽力し、現在立教大学名誉教授。芸術学博士。著書に、『合唱音楽の歴史』（全音楽譜）、『中世・ルネサンスの音楽』『バロック音楽』（講談社）、『楽譜の歴史』『西洋音楽史 中世・ルネサンス』（音楽之友社）、『オラショ紀行』『洋楽渡来考』『洋楽渡来考 再論』（日本キリスト教団出版局）など多数。また、ラジオ番組「バロック音楽のたのしみ」（NHK FM 1966-85）「音楽の泉」（NHK第一 1988- 日曜朝）の解説を通じて、西洋音楽、特に古楽の普及に果たした功績は大きい。イタリア共和国ガヴァリエーレ勲章受章（1978）、NHK放送文化賞受賞（2009）、国際音楽学会名誉会員（2012）。

2014年  
11/8（土）14:30開演 [開場 14:00]  
明治学院大学白金キャンパス アートホール



明治学院大学 〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

- 品川駅 [JR / 京浜急行]  
高輪口より都営バス「目黒駅前」行「明治学院前」下車 または 駅より徒歩約17分
- 目黒駅 [JR / 東急目黒線 / 東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線]  
東口より都営バス「大井競馬場前」行「明治学院前」下車 または 駅より徒歩約20分
- 白金台駅 [東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線]  
2番出口より徒歩約7分
- 白金高輪駅 [東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線]  
1番出口より徒歩約7分
- 高輪台駅 [都営地下鉄浅草線]  
A2番出口より徒歩約7分



中世音楽合唱団

1952年に皆川達夫によって設立され、以来、ヨーロッパ中世・ルネサンス期の合唱作品のみを演奏している。毎年1回演奏会を開催。2012年7月にはイタリア・ローマにおいて野坂操壽氏と「六段」と「クレド」の同時演奏をおこなう。現在はヨハンネス・オケゲム作曲「ミサ・ロム・アルメ」を手がけ、2015年5月30日（土）に演奏会の予定。

（写真はローマにおける「六段」「クレド」同時演奏）